

## 盛枿騒動

文

樋口 禮子



▲盛枿騒動の顕彰碑

大津谷公園の一角に「明和義民の碑」が建っています。これは、今から250年余り前の明和2（1765）年に起きた百姓一揆の顕彰碑です。

この年は天候不順ですでに麦が不作であり、さらに8月には100年に一度といわれる程の暴風雨で揖斐川や粕川が氾濫

し、稲作は格別の凶作でありました。当時この辺りでは、大垣藩に4斗3升を1俵として年貢米を納めておりましたが、大垣藩は財政難や年貢米が粗悪であることを理由に、1斗枿に「山盛り4杯」を1俵として（約4斗8升）納めるように申し渡しました。凶作のところへさらに年貢増税で追いつめられた農民達は直接大垣藩に直訴しようとしたと決意し、翌明和3年1月にまず長瀬・糸貫で、さらに池田・小島が続いて蜂起しました。大島堤から楽田へ、さらに赤坂付近から笠縫辺りまで押し寄せ、総勢3千人余りといわれています。

大垣藩は要求を聞き入れて盛枿を中止し、さらに救米として総額4390俵（池田600俵）が支給され、農民の願いは叶ったのであります。こうして騒動は収まりましたが、後の首謀者の探索は非常に厳しく、池田では宮地の喜平次と要助、糸貫では新五郎と重吉がその年の9月に斬罪に処せられ3日間の

さらし首となりました。宮地村では喜平次と要助の外に、大垣藩から池田山支配・用水管理を委ねられていた松井三郎兵衛が騒動に関わっていたのではないかと名帯刀を取り上げられました。この3人のお墓が宮地に残されています。

昭和44年、故郷の恩人を忘れてはいけないと、大津谷公園に「明和義民の碑」が建てられました。碑を支えている4角の台は当時の1斗枿と同じ大きさです。毎年10月のふるさと祭りには義民供養祭が営まれ、かがり火がたかれておじやがふるまわれます。

（参考「池田町史」）



編集 池田町観光ボランティアガイド協会